

巻 頭 言

2024 年度より会長を務めます重川一郎です。就任に際し、皆様にご挨拶を申し上げます。京大数学同窓会は 2015 年に設立いたしました。そして、渡辺信三初代会長、続いて井川満会長のご尽力により、同窓会としての形も整い、活動も軌道に乗り始めています。また、これには会員の皆様の協力が大きな支えとなっています。今後も本会の活動を継続発展させていきたいと考えています。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度も同窓会誌の発行をすることができました。8 号になります。今回は昨年の総会での講演者である富永星さんの講演をまとめたものを収録してあります。富永さんは翻訳や執筆を通して、数学の啓蒙活動に長らく携わって来られました。講演は「数学を伝えること」と題して行われ、啓蒙書の翻訳の紹介など、今までのご自身の活動をお話しされていましたが、話の展開が面白く興味深く聞かせてもらいました。私自身は数学者であるわけなので、世の中の多くの人に数学の魅力を知ってもらえることは大きな喜びなのですが、それを伝えることには長けていません。数学者自身は結構話を難しくしがちで、数学の魅力を伝えることはあまり上手いとは言えないものです。それに比べると、富永さんの活動というのは数学を広めることに大きな役割を果たしているものだと感銘を受けました。語り口も面白くて、楽しく講演を聞くことができました。今回それが記録として残され、同窓生の皆様にお届けできることを嬉しく思います。数学の魅力が十分に伝わると思いますので、同窓生の中だけにとどめず、皆さんの周辺の方にも広げていただければ、その価値が高まるのではないかと思います。本当に良い講演をしていただいたと感謝しています。

話は変わりますが、最近の世の中を見渡すと AI というものが話題にされることが目に付くようになりました。中でも生成 AI というものが日常生活にも様々に入り込んでくるようになりました。これには代表格の ChatGPT の出現が大きな契機になっていると思えます。ChatGPT は、私も実際に使ってみました。質問をすると箇条書きで分かりやすい答えが返ってきます。Google の検索よりも的確に答えてくれる感じがします。時々間違った情報も紛れ込んでくるとかの問題もあるようですが、かなり優秀に感じました。何かの委員会の案内文を作らせると、あっという間に形の整ったものが出てきます。こういう定型的なものは得意のようです。教育目的でも有効に活用できそうなものだけれど、レポートや感想文を AI に書かせて、それをそのまま課題として提出するようなことも起こっているようです。便利な道具だけれど、いろいろと使い方に注意しないといけない代物のようで、対策も取り込みながらに発展していくことになるのだろうかと思えます。この同窓会誌も、ちょっと文章の整形を手伝ってもらったりと無関係というわけでもありません。いろいろ問題をはらんだ AI ですが、有効活用できればと思います。それにしても、世の中どんどん変わっていくものだと、目をみはるばかりです。

2024 年 8 月

会長 重川 一郎